

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑥

職藝学院

教授 渡邊美保子

シュウメイギク

シュウメイギクは、キクという名前がついていますが、キク科ではなくキンポウゲの仲間です。お盆の頃、人知れずつぼみを膨らませます。名前からくる思い込みによるものでしょうか、ようやく秋めいてきた頃にその存在に気づきます。別名ボタンキブネギクとも言われています（写真1）。



写真1：一重咲きのシュウメイギク。草丈は1m前後。
職藝学院宿根草実験ガーデン9月中旬。

シュウメイギクは、落葉樹の下などの明るい日陰を好み、有機質に富んだ湿り気のある土なら丈夫に育つ長命な宿根草です。酸性の土を好むため、酸度調整は不要です。日当たりの良い場所でも花は咲きますが、直射日光で葉が焼けて、カサカサと音をたてるぐらいになりますのでお勧めはできません。

花は白や桃色などの一重咲きや八重咲きのものがあり、草丈が低い矮性品種もあるようです。実は、花びらのように見えているのは萼が変化したものです。中心の丸いボタンのような部分が雌しべで、その周りを見守るように囲んでいるのが雄しべの集団です。萼がはらはらと散り、それから雄しべが名残おしそうに地面に落ちた後も、真ん丸い雌しべは、黄色いタマゴボーロが浮かんでいるように見えて面白く、しばらく楽しめます（写真2）。この雌しべは12月になると、とんでもないものに変化します。綿毛が



写真2：シュウメイギクの花

煙のように風にたなびいて、空中をふわふわ舞いながら消えてゆくのです。これが種です（写真3）。富山の場合は雪が降る頃ですので、なかなか気づいてもらえないようです。

お勧めの組み合わせは、シュウメイギクとキョウガノコです。キョウガノコの手前に、シュウメイギクを植えると、早い時期から互いの葉がこんもりと繁ることで、地面の乾燥を防ぎ、雑草侵入のない安定した組み合わせになります。また冬になったら、枯れ枝をそのままにしておき、雪が解けてから細かく切り、株元にマルチングをしてください。ゆっくりと分解され追肥の必要もなくなります。



写真3：シュウメイギクの種。12月中旬。